



光重合型歯冠用硬質レジン

# セラマーシュ システム

ガムカラービルドアップガイド



Light-curing Crown & Bridge,  
Inlay and Veneer Composite

## CERAMAGE



Light-curing Crown & Bridge,  
Inlay and Veneer Composite

## CERAMAGE



SHOFU INC.

ご使用に際しては、添付文  
書などをご参照ください。



## はじめに

このたびは、セラマージュ システムをお買い上げ頂きありがとうございます。

コンポジットレジン「セラマージュ」およびフロータイプコンポジットレジン「セラマージュ アップ」は、コンビネーションで使用することにより、すぐれた築盛操作性を発揮します。また、色調再現性についても、歯冠部・歯肉部ともに審美性の高い補綴修復物を製作することが可能です。

このビルドアップガイドは、特に本システムのガム色を有効にご活用いただくために作成しました。本ガイドでは、上顎フルアーチのインプラント上部構造体の作製ステップを示しています。歯冠部および歯肉部の築盛について、シンプルかつ効果的で解剖学的見地に則した審美表現を用いて解説します。本ガイドで紹介する色調再現テクニックをぜひお役立てください。



写真提供 / 関 錦二郎 先生 (南関錦二郎商店)

## ワックスアップ完成



通法により、作業模型を製作した後、プロビジョナルレストレーションなどを参考にして、歯冠、歯肉の外形をワックスアップにて作製します。その後、必要に応じたカットバックを行い、所定のフレーム形態を作製します。この際、レジン築盛層のクリアランスが0.6mm以上確保できるように設計します。

また、カットバックを行う前には、あらかじめシリコーンなどでワックスアップのコアを作製します（築

盛スペースの確認やレジン築盛時のガイドとして活用します）。

その後、フレームの素材に応じて鋳造法、または歯科用コンピュータ支援設計・製造ユニット（CAD/CAMなど）を用いた切削加工法等で、フレームを作製します。

## フレームの前処理



形態修正されたフレームの材質に応じた前処理を行います。

### 例1

#### ▶ 金属フレーム

前装部をアルミナにてサンドブラスト処理します。その後、スチームクリーナー又は超音波洗浄器で水洗し、乾燥させます。次に歯科金属用接着材料（メタルリンク）を塗布し乾燥させます。

### 例2

#### ▶ トリニア<sup>※</sup>の場合

※トリニア：CAD/CAM用ガラスファイバー強化型レジンドイス

前装部をアルミナにてサンドブラスト処理します。その後、スチームクリーナー又は超音波洗浄器で水洗し、乾燥させます。次にセラミック・レジン接着用ボンディング材（セラレジンボンド）のボンドIを塗布し乾燥させます。その後、（セラレジンボンド）ボンドIIを塗布し、10秒間自然乾燥を行い、歯科技工用光重合器ソリディアイトVIにて光重合を3分間行います。

その後、プレオベーク（セラマージュ プラスオベーク）を小筆で塗布し、光重合を1分間行います。さらに、オベーク（セラマージュ プラスオベーク）を小筆で塗布し、光重合を3分間行います。必要に応じてこの操作を繰り返します。

### 注

CAD/CAM切削加工法によりフレームを作製する場合、リテンションピース等の維持装置を付与することができません。このため、フレームへのアルミナサンドブラスト処理を注意しながら確実に行う必要があります。

以降の築盛例において、使用するペーストはセラマージュ歯冠用コンポジットレジン、またはセラマージュ アップ(フロータイプ)のどちらでも選択可能です。

## 歯頸部の築盛



AC1 (中切歯と側切歯および臼歯)      AC2 (犬歯のみ)

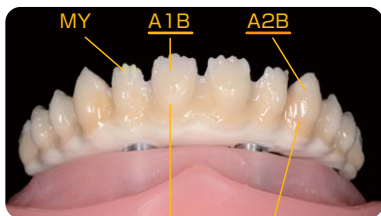
通法に従いオバークデンティン又はサービカルを歯頸部から歯冠中央部に向かって、移行的に薄くなるように築盛し、光重合(予備重合)を1分間行います。

### ■ 築盛色調例 ▶ 歯頸部の調整

各歯牙の特徴付けとして、中切歯や側切歯と比較して犬歯の明度を落とす場合には、犬歯に1ランク色調の濃いシェードを選択します。

写真では、中切歯と側切歯および臼歯にはAC1、犬歯にはAC2を築盛しています。

## ボディー色の築盛



通法に従いボディー外形を築盛します。

ボディーを築盛した後、光重合(予備重合)を1分間行います。

### ■ 使用色調例

中切歯や側切歯、犬歯の各歯による色調変化や、歯冠部位の色調を調整をします。歯頸部は濃いシェード、ボディーの中央から先端部は1ランク明るいシェードを選択します。

写真では、中切歯及び側切歯の歯頸部はA2B、ボディーの中央から先端部にはA1B、犬歯の歯頸部はA3B、ボディー中央から先端部にはA2Bを築盛しています。

また、ボディー先端の指状構造には必要に応じてマメロンイエロー(MY)などを築盛し、不透明部を再現します。

#### 色調名の詳細

UP :セラマージュ アップのみの色調

下線あり:セラマージュ及びセラマージュ アップにラインナップされた色調

下線なし:セラマージュのみの色調

## 切縁部の位置確認・築盛



OC BG AM-Y or Inc60

先端部の壁

・中切歯 57 ・犬歯 58

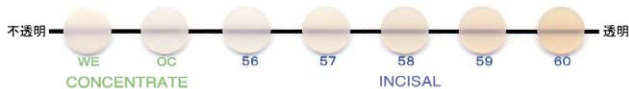
### 使用色調例

#### ▶ 切縁の築盛

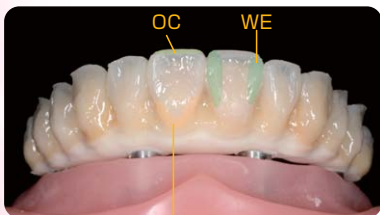
切縁の位置決め使用するインサイザルは、各歯の色調特徴に合わせて使用します。中切歯及び側切歯は明るい色調の57を使用し、犬歯は58などを用います。また、切縁の透明感を強調したい部分にはBGなどを築盛します。

#### ▶ 隣接部の築盛

その後、エナメルのキャラクタライズとして、隣接部にはインサイザルよりもわずかに不透明なOCを築盛します。



## インサイザル色の築盛①



OC WE CT-A

### 注

レジンの築盛量が多くなる場合は、1歯ごとに予備重合しながら築盛すると、重合収縮による応力の集中を防ぐことができます。

## ～キャラクタライズ～

歯冠外形の骨格を作製するように築盛します。この時、隣接部や切縁は僅かに不透明なシェード、また歯頸部にはやや彩度の高いサービカルトランスなどを築盛します。外形確認後、光重合（予備重合）を1分間行います。

### 使用色調例

#### ▶ 切縁の築盛

切縁の骨格にはOCを築盛し、インサイザルヘイローの色調を調整します。

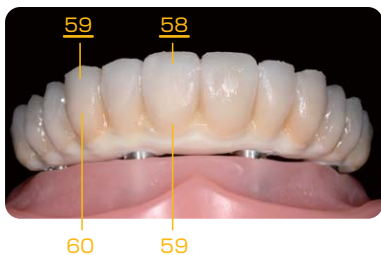
#### ▶ 隣接部の築盛

隣接の骨格にはOCよりもやや不透明なWEを築盛します。

#### ▶ 歯頸部の築盛

歯頸部の骨格にはCT-Aを薄く築盛します。これにより歯頸部の透明感と彩度を強調します。

## インサイザル色の築盛②



### 使用色調例

#### ▶ 切縁・歯冠中央部の築盛

中切歯・58を築盛。

犬歯・59を築盛。

#### ▶ 歯頸部の築盛

中切歯・59を築盛。

犬歯・60を築盛。

次に骨格間で形成された面を作製するように築盛し歯冠の外形を整えます。

先端部はやや明るいシェード、また歯頸部はやや暗めのシェードのインサイザルを築盛します。

また、各歯牙の特徴付けとして、犬歯は中切歯よりも1ランク暗めのシェードのインサイザルなどを築盛します。

外形完成後、光重合（予備重合）を1分間行います。

## 歯冠部の形態修整



通法により研削材を用いて形態修整を行います。なお、この後の工程で歯肉部の作製を行うため、この段階では歯冠部の細かな表面性状は付与せず、また、研磨作業も行いません。

形態修整後、スチームクリーナー又は超音波洗浄器で水洗し、乾燥させます。

次にガム色の築盛を行います。

### ▶ トリニアの場合

セラミックス・レジン接着用ボンディング材（セラレジンボンド）のボンドIを塗布し乾燥させます。その後、（セラレジンボンド）ボンドIIを塗布し、10秒間自然乾燥を行い、歯科技工用光重合器ソリディライトVIにて光重合を3分間行います。

### 色調名の詳細

UP : セラマージュ アップのみの色調

下線あり : セラマージュ及びセラマージュ アップにラインナップされた色調

下線なし : セラマージュのみの色調

## ガム色の築盛① ～血管色の再現～



UP:GUM-R UP:GUM-V  
(ライトアート R)

歯肉部の可動粘膜に見られる血管色を再現します。  
築盛後、光重合（予備重合）を1分間行います。

### ■ 築盛色調例

#### ▶ 血管の赤色再現

UP:GUM-Rを築盛します。また、より濃い赤色を再現する場合、ライトアートのRで微調整を行います。

#### ▶ 血管の淡い紫色の再現

UP:GUM-Vを築盛します。

## ガム色の築盛② ～辺縁歯肉の下地築盛～



GUM-Or

歯間乳頭の内部に見られる健康的で明るい色調を再現します。

築盛後、光重合（予備重合）を1分間行います。

### ■ 築盛色調例

#### ▶ 歯間乳頭部の下地再現

GUM-Orを各歯間乳頭の下地として築盛します。

## ガム色の築盛③ ～辺縁歯肉の下地築盛～



GUM-L + GUM-Or + UP:GUM-SP

付着歯肉の下地の色調を再現します。

明るく発色性のある色調を選択します。また、必要に応じて複数の色調を選択して色調表現を行います。

築盛後、光重合（予備重合）を1分間行います。

### ■ 使用色調例

#### ▶ 付着歯肉の下地再現

GUM-LやGUM-Or、また UP:GUM-SPを各部分の下地に築盛します。また、複雑な色調再現が必要とされる場合、各色調を混ぜ合わせて使用します。

### 注

- ・ペーストを混ぜて使用する場合は、気泡が混入しないように注意して混合します。
- ・セラマージュは、ペースト同士を混ぜて使用することはできません。



## ガム色の築盛④ ～キャラクタライズ～



UP:GUM-R

A1Bなどボディー色

骨隆起の再現をします。

骨隆起は歯冠色(ボディー、オパークデンティン)などを用いて築盛します。

また、骨隆起の築盛後、必要に応じてその表層をUP:GUM-Rなどで調整します。

築盛後、光重合(予備重合)を1分間行います。

### 使用色調例

#### ▶ 骨隆起の再現

骨隆起の再現にA1Bを使用します。また、より顕著な骨隆起を再現する場合はODA1の築盛も効果的です。

また、骨隆起表層の血管の再現には、UP:GUM-RやライトアートのRを用います。

## ガム色の築盛⑤ ～歯肉上皮の築盛～



全体に59、GUM-Tなどで築盛

歯肉部全体の上皮を作製します。

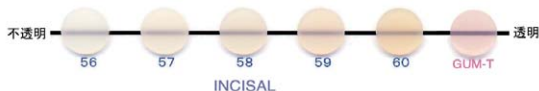
上皮はガムトランスまたはインサイザルを用いて築盛します。この際、下地色と表面キャラクタライズの発色が減少するので、厚み、色調選択に注意し、歯肉の最終形状をイメージしながら形態を付与します。

### 使用色調例

#### ▶ 歯肉上皮の再現

歯肉部全体をGUM-Tや59でカバーリングし全体の形態を整えるように築盛します。

この時、下地色と表面キャラクタライズの発色が減少することに注意し、色調を選択します。透明度の高い色調を選択すると明度が下がりやす



い傾向があるため、歯槽粘膜付近などの明度の低い部位の色調調整に有効です。

また、付着歯肉や遊離歯肉など明度を下げたくない部位には59などを用います。

### 色調名の詳細

UP:セラマージュ アップのみの色調

下線あり:セラマージュ及びセラマージュ アップにラインナップされた色調

下線なし:セラマージュのみの色調

## 研磨・完成



通法により艶出し研磨を行います。



口蓋皺壁の再現には、下地色調として歯冠色（ポディー、オベークデンティン）などを用います。その下地色調の表層に唇・頬側の歯肉上皮で用いた色調（[GUM-T](#)や[59](#)）を使用し、口蓋皺壁の形態を作製します。







世界の歯科医療に貢献する

**株式会社 松風**

<http://www.shofu.co.jp>

本社●〒605-0983京都市東山区福福上高松町11・TEL(075)561-1112(代)